

第 8 号 昭和51年10月15日

発行者 群馬県山岳連盟

〒371 群馬県前橋市大手町1-1-1

TEL (0272)23-1111 内線519-520

群馬県観光課内

編集者 群馬県山岳連盟編集委員会

責任者 川辺柳一

印刷所 高橋印刷

定価 1部50円

題字 浜名一雄

野山に想いを馳せ



常任理事 坪井信一

現今の社会には何か狂ったものがある。それが原因は何にあるか。私は思う「モラルの喪失」ではないかと。新聞、テレビの中心事は、ロッキードであり、政権問題、又々角柴出馬問題等々、一般正常な考え方かと疑う事ばかり。

一つ吾が松井田を囲む野山に想いを馳せれば、中木の峰々、沢や清流が、何か不自然なものに侵されていく感じが深い。三十数年前の中木沢の流れは、もっと青く吾々の童眼に映った様な気がする。あの妙義スミレも、此処彼処の叢にその可憐な姿をのぞかせ、妙義羊歯も滝の周りに数多くみられたものであったが、然し、今では探す事が困難になっている。

それは懐古趣味と云って片付けられるべき問題ではないと考える。何か狂っている原因ではないか。「無理が通れば、道理が引く」の諺ではないが、モラルの喪失という無理が横断的に押されて、自然の生態が頭を押さえて引込んでしまったのではないか。

人間社会は生活環境が高度に発達して、時間的余裕が出て来たので何の批判もなく物事を処理し、それを自己中心的に考えてすませているのではないだろうか。

野山に来て、自然の中に生きている側の事を念頭になく、恰も自然を吾が家の勝手手のダッシュボードの如くに考え方を投げ込んでいく。そして吾々を介処理施設の作業員とも思っ、年数回の中木の清掃も当然と考えているのである。あの有名な「釜めし」の釜は至る処捨てられて、今ではちよつとした平なところを掘ると古代の縄文の器の様に出てくるのがその釜の片々である。私は叫びたい。「中木にはもう釜めしの釜を処理する場所はないですよ。」

非産出物の日本でも鉱脈を発見する事が出来る。やがて戦争にもなつて、アルミ鉱が乏しくしたら、「中木に来て下さい、アルミ缶が埋蔵されておりますよ鉱山師さん」と、コマージュのスポンサーになつてテレビの放面でもしたい程です。

地元でも心ある人々は数少ない休日、目に余るからばつばつと処理しているのに次の週に行くと、中木の河原は芥処理場の集芥室の様で悪臭まで放っております。

一体野山に来る人々は、自分の家でもこんな風に汚しているのでしょうか。決してそんな事はありません。日本人は決してそんな民族ではないはずで、小綺麗な住人で生活しております。それなのに外に出るとどうしてこんなに汚すのか。自分の家の中と同じ様に考えて生活環境も自然環境も扱って居ればこんな結果にはならない。矢張りロッキードも政権も角さんも帰するところは同じではないのでしょうか。「自分さへ満足すればよい。」との考えが強いのです。

私は考える、「他に迷惑を掛けず、野山に想いを馳せ」

野山へ行って楽しく一日を過ごすとき、矢張り偶に出掛けて来たのだからロマンチックな想いに耽りたいのが自然環境の持つ特色でしょう。綺麗なところでお弁当をひろげて家庭では味わう事のない気分になりながらゆつくりと食べたものでしょう。それが汚れた処だらけであつたならどうします。

人々は歎き悲しむ事でしょう。自然環境とはこんな汚れたところではないと、そして汚した人を恨む事でしょう。故に帰る時には元の綺麗な自然環境にして後から来る人の為にもと、又自分自身の良心の為に、そして、その事によって素敵な行楽日になるはずで、喧嘩とした社会に住み、人間関係の葛藤に身をすり減らしている吾々に少しでも静寂と落ち着きを与えて呉れる自然環境に反対はしないが、お礼として清潔というプレゼントをしたいと願ひつ、野山に想いを馳せ

今年度から岳連の中に国体部が設けられました。そこで現在までの国体部の活動状況をお知らせします。

先ず、会議や国体選手せんこう会の模様ですが、

1、国体審判員研修会
四月二四日長野県茅野市夢科において行われ、本県から村上泰賢氏が出席しました。この研修

事は罪悪である」と。

3、少年男子のせんこう会
六月二六日、二七日と二日間、わたりやはり谷川岳で行いました。採点項目は成年男子と同様です。

4、国体委員会
六月二六日、二七日、静岡県の中伊豆町で開かれ、本県から高田政美氏が出席しました。主に山岳競技の規則等について討議されました。

5、国体部会
七月八日協議においてはじめての国体部会が開かれ、活動状況や研修会、委員会の報告、それに今後の活動方針など話し合いました。

6、少年男子関東地区予選会
少年の部ではそれぞれブロック予選を通過したチームのみに参加資格が与えられます。関東地区は栃木県宇都宮市の太谷、古賀志山系で予選会が行われました。八月一四日、一五日の二日間で本県は予選を通過しております。なお、審判員として高田政美氏が出席しました。

7、国体委員会
国体協の国体委員会が九月八日県民会館で開かれ、山岳は大澤清氏が出席しこの席で正式に国体選手監督が承認されました。

監督 阿久澤 廣
選手 茂木 貴太郎
平形 真二
関口 賢
久丸 実
茂木 国彦
木村 文雄

六月六日谷川岳で行いました。体力、技術、装備、観察研究等の項目について採点しました。体力については担荷重量は三〇kgとしました。観察研究の中には天気図やペーパーテストも含まれております。

です。皆さんの健闘を期待しております。

次は国体部のメンバーですが、指導員会の中から国体の経験者を集めました。ご承知のようにあと七年後には本県で国体を開かなければなりません。選手強化は勿論国体の規約の勉強、コース設定の準備、開催地の視察、審判員の養成などたくさんの仕事があつて情報収集から始め、国体部会から岳連の組織全体へ、更に開催地の市町村などを含めた実行委員会への踏み台として国体部が発足したのです。

とかく沈滞しがちな国体登山ですが、やがて得点種目になります。本年は佐賀県の背振山系、多良山系で一〇月二四日から二九日まで開行されますが、皆さんのあたにかいご支援をお願いいたします。

一〇月二四日、二九日
第三回佐賀国体
(背振山系及び多良山系)
成年男子・少年男子が参加
一〇月二四日(日)
救助隊訓練(榛名山黒岩)
講演と映画の夕べ
(海外登研)

一〇月二四日(日)
オリエンテーリング講習会
机上(夜)一月中旬
(読図とコンパスワーク)
実習(一四日(日))
前橋市北部の橋山周辺
二月冬山合宿検討会

一〇月二四日(日)
前橋市北部の橋山周辺
二月冬山合宿検討会

前橋市北部の橋山周辺
二月冬山合宿検討会

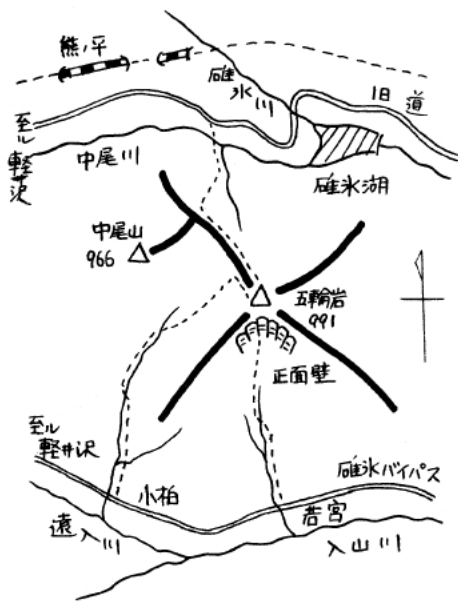
前橋市北部の橋山周辺
二月冬山合宿検討会

前橋市北部の橋山周辺
二月冬山合宿検討会

岳連の行事予定

一〇月二四日、二九日
第三回佐賀国体
(背振山系及び多良山系)
成年男子・少年男子が参加
一〇月二四日(日)
救助隊訓練(榛名山黒岩)
講演と映画の夕べ
(海外登研)

五輪岩周辺



裏妙義山塊の中でも、位置的にはずれており碓氷峠と入山の間中に位置する山である。標高は九九一メートルあり、山頂には二等三角点が置かれている。国鉄横川駅で降りて踏切りを渡り、国道一八号線へ出るとバス停留所がある。赤坂、恩賀方面のバスに乗り(徒歩三〇分)若宮で降り横川方向に二〇メートル位もどると橋がある。パイパスを横断し右手の大きな岩の基部に登山道がある。十五分位で畑もなく杉林に入ると間もなく二手に道が別れるので左側を登って行く。しばらくすると尾根に出る。もう少し目の前に五輪岩の正面壁が迫って見える。これより道を左手に取り少し下ると小さな沢に出る。この沢を正面壁の中央基部に向って登って行く。もうこの辺では沢には水は見当らない。やがて正面壁の中央基部に着く。これより五輪岩の山頂までのルートは二つある。一つはロッククラ

トである。さて正面壁のルートでイミングで正面壁を直登するルート、もう一つは基部より左側に正面壁を大きく回り込み、ルンゼ状の沢を登って壁の上部に出るルートと山頂である。もう一つの一般的

—かくされた山④—

裏妙義五輪岩

松井田山岳会

あるが、約一五〇メートルの垂直の岩壁であり、妙義山特有の集塊凝灰岩で形成されており非常に岩がもろく風化されているのでハートンもあり有効でない。ルートは基部中央のルンゼ状にとる。まず五メートル程登ると二人立てるテラスに出る。これよりハーケン三本とバランスにより二〇メートルの垂直のルンゼ状の壁を直登すると雑木が一本あるオーバハング下の大テラスに出る。これまでの場所がこのルートで最もいやな場所である。これよりハンク下のテラスを斜上するとオーバハングの切れているフェイスに出るが、高度感があり快適なバランスクライミングが出来る。約四〇メートルでプッシュに入る。これより約二ピッチ、プッシュを登ると正面壁の上に出る。深い谷を隔てた奥に五輪岩山頂が見える。山頂のルートは稜線づたいに約三〇分登ると山頂である。もう一つの一般的

五輪岩正面壁と頂上



までは徒歩で約四五分である。

理事会報告

総会終了後理事会を開催し、常任理事の役員改選を行なう。六名の選考委員により選考がなされ、選考の結果が、須藤準郎氏(安中)より発表され、全会一致で承認された。

各専門部の委員については、その後七月十四日の常任理事会で担当が決められた、次の通りです。

理事 石井謙一郎(伊勢崎)
副理事長 田中成幸(登高会)
総務 富山 真(太田) 大井 清(前橋)自然保護を兼任
企画 福島英雄(岳想会) 柴田義孝(ミヤマ) 須田栄一(むすび)
指導員会 田中成幸(登高会)
原田惣一(倉瀬)
岩基部(六分) 山頂(七分) 小柏 遭村(西山) 秋沼田 加藤藤夫(富士)

松井田山岳会紹介

昭和三年創立、主に奥利根源流を中心に山行を重ねている。また、裏妙義山域での遭難救助に当っている。会員数三五名、事務所・松井田町新堀二三松井田町商工会内、TEL〇二七三三九三三 一四二一、会長・小橋橋典聖。

嶺呂原稿募集

宛先・三七〇一 佐波郡境町境五六四 川辺柳一 電話・〇二七〇七(四) 三八一七

また事務局の、長井澄夫氏が都市公園センターに転出することになりました。長い間ご協力頂き有り難うございました。

一般看板・プラスチック看板・展示会装飾

総合
公告

ヒロタデザイン

前橋市昭和町2丁目18-30

TEL 31-0698

夜間 69-6214

羽毛製品まつり

お買得品多数、なにはともあれ店までどうぞ。

山とスキーの店

有限会社 石 井

伊勢崎市中央町18番8号

TEL 0270-25-0272

岳連總會

昭和五一年度事業計画決る

六月二十日午後、県民会館に於いて五十一年度の岳連總會が開催された。当日の参加団体は二十七、参加者五十六名で、審議された内容は五十一年度の行事報告と会計報告。五十一年度の行事計画と予算、及び規約の改正と役員の変更が行なわれた。

会議は、浜名会長の挨拶に始まり、会長を議長に選任して、前項の審議を行なったのち、参加者による懇親会を行なって散会した。

一、五十年事業報告
計画した行事については、ほぼ初期の目的を達成することが出来た。遭難関係では事故防止と救助技術の向上について進歩が見られ、指導関係も新しい技術の修得について成果をあげた。

岳連報の発行も、四十七号までの四回発行されたし、その他では自然保護に関係する、尾瀬・谷川のバトルと美化運動をあげる事ができる。

二、会計報告
活動の活発化と諸物価の値上りに伴い、予算が不足する傾向が見られ、五十年度は、四七、六三三円の赤字欠損となった。

欠損については特別会計から補填することが承認された。

監査報告
会計については収支面とも問題は認められず、適当であることを認める。尚赤字については会費の

値上げその他の方法で解決すべきである。

監査代理 坪井信一
三、規約改正
会費値上げ、常任理事の定数増、副理事長の新設、国体部その他の部の新設についての規約改正。

四、役員改選
諸経費の値上り、及び赤字欠損の問題解決のため、現行五千元を八千円に、登録料百円を三百円(年間)に値上げする。

(一) 入会金の値上げ
現行五千元を、一万円とする。

(二) 副理事長の新設
理事長を補佐する役職として、副理事長を新設する。

(三) 常任理事の定数を削減
現行十四名以下の定数をのぞき必要に応じて増減出来るように改訂する。

(四) 専門部の増設
国体部の新設、これは国体登山の採点種目への移行、群馬国体準備のために必要と認められるため、以上原案通り可決された。

(五) 項のうち登録料については五十一年度分は徴収済となつていため差額となる二百円の徴収方法については、別途の方法で通知することになる。

五、五十一年度予算案
会費納入のおねがい
当山岳連盟は下記の表をみてもおわかりのように、その台所は大変苦しい内情です。円滑な運営のためにも、納入に協力を。

副会長 落合 正(高崎)
" 中島喜代志(水上)
" 赤石 春親(桐生)
監事については次の方々が新任されました。

監事 北村 登男(沖)
" 堀江登志夫(伊勢崎)
五、五十一年度事業計画
四月 谷川岳バトル(連休)
救助隊結団式
五月 一般対象救助訓練
二三日 高校総体
三〇日 春山雪上講習会
六月 国体選手選考会
二〇日 総会
二七日 岩登り講習会
七月 谷川岳山開き
八月 一日 尾瀬美化運動
九月 海外トレッキング
報告書発行・映画の会
十月 国体派遣
救助隊訓練
十一月 オリエンテーリング机上
講演と映画会(海外登研)
及び実技講習会
十二月 冬山合宿検討会
一月 冬山合宿報告会
二月 氷雪技術講習会
三月 海外登山技術研究会
雪上救助訓練
一九七八年遠征計画の推進
五十一年度予算案

昭和50年度収支決算書

収入の部		(単位 円)		
科 目	予 算 額	補 正	収入 済 額	
繰 越 金	110,331	0	110,331	
会 費	438,000	△ 182,400	255,600	
交付金・補助金	232,000	0	232,000	
寄 付 金	5,000	△ 5,000	0	
雑 収 入	64,669	18,009	82,678	
計	850,000	△ 169,391	680,609	

支出の部		(単位 円)		
科 目	予 算 額	補 正	支出 済 額	
事 業 費	625,000	△ 57,470	567,530	
会 議 費	30,000	△ 10,500	19,500	
事 務 費	35,000	△ 6,950	28,050	
旅 費	40,000	△ 27,920	12,080	
負 担 金	85,000	0	85,000	
予 備 費	35,000	△ 18,920	16,080	
計	850,000	△ 121,760	728,240	

遭難救助隊
出動報告

六月五日、谷川岳ノ倉沢衝立岩ダイレクトカントレイルで、福島こまき山岳会三人パーティーが、原因不明の遭難を起こし、一人は衝立スラブへ転落、二人が宙吊りとなった。六月七日、隊員一名が遺体収容に出動した。

七月二日、G H M J 四人パーティーの一人が、本谷から衝立前沢へ渡ろうとしていた時、足元の雪渓が崩れてシュルンドへ転落。この日救助隊の訓練日で現場付近を登山中、直ちに救出した。二名出動。遭難扱いにはならなかった。

七月三十一日、群馬ミヤマ山岳会三人パーティーが、谷川岳南面オシカ沢を、日帰り予定で登山したが帰宅してないため、八月一日に隊員一名が、捜索を開始した。午後四時三十分頃、三人は谷川岳登山指導センターへ到着した。三人の話では、雪渓の状態が悪くて時間を費して、オシカ沢の途中でビバークしたとのこと。これも遭難扱いにはならなかった。

八月二日、東京しりうす同人の二人パーティーが、谷川岳南面鷹ノ巣沢C沢を登攀中、一人が草付に足を滑らせて転落し、行方不明となった。八月二日、同行者が午前七時頃、肩の小屋へ連絡し、肩の小屋と土合山の家の九時の定時交信で、警備隊を通じて救助要請があった。隊員二名が出動し、捜索したが、遺体となって発見され、八月三〇日に収容した。

昭和 51 年度 予算

収入の部		(単位 円)		
科 目	予 算 額	前年度予算額	比 較 増 減	
繰 越 金	△ 47,631	110,331	△ 157,962	
赤 字 充 当 金	47,631	0	47,631	
会 費	461,600	438,000	136,600	
末 取 金	113,000			
交付金・補助金	232,000	232,000	0	
寄 付 金	5,000	5,000	0	
雑 収 入	116,400	64,669	51,731	
計	928,000	850,000	78,000	

支出の部		(単位 円)		
科 目	予 算 額	前年度予算額	比 較 増 減	
事 業 費	720,000	625,000	95,000	
会 議 費	30,000	30,000	0	
事 務 費	35,000	35,000	0	
旅 費	40,000	40,000	0	
負 担 金	85,000	85,000	0	
予 備 費	18,000	35,000	17,000	
計	928,000	850,000	78,000	

スキー・登山・ゴルフ・野球
その他スポーツ用品全般

カナイススポーツ

前橋店 前橋市城東町3-1-1(上電プラザ内)
TEL (32) 6 1 1 3

オリジナルギフト製造販売
贈答品・記念品・引出物
株式会社 丸 興

御一報下されば伺います

高崎市上中居町1382
TEL 0273-52-0970(代)

カラコルム偵察隊報告

海外登山研究会

七月二日、いよいよシム・ラ

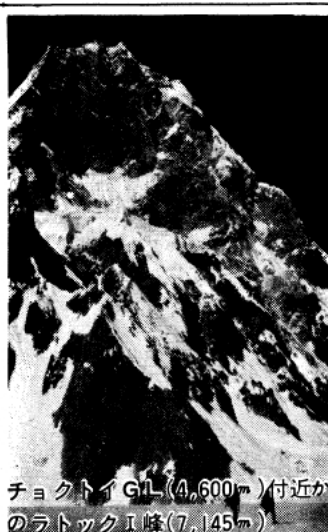
への登りとなる。コルへの登りは
いずれも急な雪壁となつてい
る。最低部を目指すには、クレバスが
多すぎる。傾斜もきつい。比較
的楽そうなの右の斜面にルートを取
る事にした。陽が出る雪がゆる
んで登りやすくなるので、午前二
時半に起床、早目に出発した。高
度計は五〇〇mを越えている。
雪がしまつていてアイゼンがよく
きく、にもかかわらず雪壁の下ま
で行くのさき苦しかった。アンザ
イレシで、山田、小林、岡庭、
奥原のオーダーで登り出す。四〇
五〇度くらいの傾斜だったが、
見上げると恐ろしい程の傾斜に感
じた。三ピッチ程登ったあたりか
ら、雪がゆるみはじめる。小規模
ではあったがラビネンツクが
何本か走っていて、雪崩が気にな
る。一〇ピッチ程登ったあたりで
ルート工作中のトップから雪崩そ
うだと言ってくる。この雪壁から
早く抜きたいと気ばかり焦るが、
フォ氷河まで行けそう。バイン

五、六歩登つては大きく息をつき、
ピッチは遅々として進まなかつた。
トップがトラバース気味にルー
トを伸ばした時に、その直下から
小規模な表層雪崩が起り、肝を冷
やした。一二ピッチ、約七時間を
費して雪壁を登り切った時には、
全員へばつてしまつていた。高度
五三〇m。

シム・ラからは東方の眺望が素
晴らしい。ムスターグタワから
K₂への山々が望まれる。ブロード
ピークは残念ながら雲にかくれて
見えなかつた。(翌朝見る事が出
来た。)

その日は、もう動く気がしな
かつた。バインダー・ブラックの東
壁からは雪崩が小止みなく続いて
いる。最低部まで下って暮営した
が、我々の進むシム・ガン側は、
ゆるやかな斜面が続いており、先
の見通しは明るい。

三日、ゆるい下りをガンガン
下る。この調子だと明日にはピア
ラトックまで行けそう。バイン



チョクトイGL(4,600m)付近の
ラトック峰(7,145m)

ターのすっぱりと切れ落ちた北壁
を左に見上げながら急ピッチで下
る。スカム・ラからの氷河を合せ
るとシム・ガンはぐつと拡がり、
前方にヒスパー・バスが見えだす。
広大な雪原を前景に、スノレレイ
ク周辺の山々が白く美しい。陽が
高くなるに従つて雪がゆるみだし、
歩行困難になる。こんな所ではス
キーは有効だろうと考える。午
前中で行動は中止して、明日から
夜の冷込みを待つて雪のしまつた
時に行動する事にした。それにし
ても、こんなだだつ広い雪原で悪
天候に会つたら進退きまると
冗談を言つたが、翌日から現実
になるとは思ひもよらなかつた。

午後一時五〇分出発。天気が
下り坂になつて冷え込みが少なく
表面クラストだけで足音までもぐ
つてしまふ。天気も悪くなり雪が
降り出してしまつた。二時間程で
行動を中止。夜が明けて増々降り
はげしくなつた。視界は非常に
悪い。食料が乏しいだけに不安で
あつた。一四、一五と雪の中を
進んだ。シム・ガンを抜け出す事
出来ないのをとどしく思つた。
予定で行けばピアフォ氷河を抜け
切つてゐる頃だ。一六日は完全な
風雪となり、視界は〇mに近くな
つてゐた。ヒドン・クレバスに神
経を使う。一〇時頃から風が弱く
なり、ピアフォ氷河に入つた事
を知る。下るに従つて積雪がなくな
り、山一つへだてた氷河でこれ程
の遠いがあるのかと驚いた。チュ
ール氷河手前まで下つて暮営。食
糧は今夜で底をつく。しかし、天

候の回復と、先の見通しのついた
事もあつて、それ程の危機感にな
くなつてゐた。

一七日、登攀倶楽部京都隊のB
Cのあるバインター・カルカまで
下る。しかし、ここで山田、小林
をウズン・ブラック氷河のモレー
ンで見失ひ、奥原、岡庭は下り過
ぎてしまつた。その為二日間別
行動を取り、一九日、アスコレ
手前のデボ地点で無事再会した。
(その際、登攀倶楽部京都隊の人達
から色々とお世話いただきました。
本当にありがとうございました。)

アスコレからは偶然にもグッ
ソーで雇つたポーター達に会い、
再び彼等に荷を負わせて、バハ
まで二日のキャラバンで下る事が
出来た。スカルドで二日間のフラ
イト待ちの後、七月二六日ラウル
ビンディに着着。

私達四名が幾つかのアクシデン
トに会いながらも、所期の目的を
達して、無事帰国出来たものも
計画前、さらに出発前の多くの皆
様方からのアドバイスや御助力を
頂けたからに他なりません。私達
四人にとつて、まったく未知の世
界であるカラコルム・ヒマラヤに踏
み込んで行けたのも、海外登山研
究会を中心とした経験者の後援が
あつたからだに感謝しております。
我々個人も、各々に貴重な体験
をして来る事が出来ました。その
体験を今後には是非生かしたいと考
えております。本当にありがとう
ございました。(現在、報告書
作成中です。)

(文責 奥原彦治)

一般対象の
救助訓練開く

救助隊

夏季救助訓練

一、日時 五月二十三日(日)
一、場所 妙義ロックガーデン
一、参加者 カモシカ(3)、むすび
(1)、群(2)、前橋(2)、ミヤマ(2)
高崎(3)、沖電気(7)、雪水(3)、松
井田(1)、その他、役員(1)
計三十七人

一、天気 雨のち曇り
遭対部主催の一般対象の救助訓
練は、岩と雪を一年交互に実施し
ており、回を重ねることに参加団
体が多くなり、役員も大はりきり
です。

尾瀬美化運動の実施

七月三十一日、八月一日。参加
者十二名により、尾瀬美化運動に
参加し、パトロールと
ゴミ拾いを実施した。

今回は、赤石副会長、石井理事
長、他、常任理事、事務局四名
が主体となり、他に富士重工から
二名の参加を得て、澄みきつた空
気の中をさわやかな風にゆれる高
山の植物の名を、クイズで楽しみな
がら歩いてきた。

尾瀬も目につくところにはゴミ
が少なくなつたようだ。

谷川岳

山開きパトロール

群馬女子雪水クラブ二名が
ネパールへトレッキングに

七月四日、数年振りの快晴に恵
まれた山開きに、一千名程の人達
が入山した。
当日は、県警・都岳連などから
も参加し、安全登山と、ゴミの持

月下旬羽田を出発しました。
二人の計画は、アンナプルナ一
周、ランタン谷、エベレスト方面
を二ヶ月に渡つてトレッキングす
る予定です。

編集後記

嶺創刊号を出したとき、わた
くしは、内容はともかく先ず発刊
することに努力したと言つた。そ
して長続きさせることを祈りつ、
二年が経過した。ようやく軌道に
乗つたと言つてもよいだろう。

岳連の総会で今年度から新しく
国体部を設けることが決められた。
五八群馬国体へ向けいよいよ岳連
もGOの姿勢をとることとなつた。

五五年あたりから山岳も得点種目
に移行する。選手の養成にもつと
めなければならぬ。競技規則
の研究、コース予定地の調査、他
県の国体準備の状況などいろいろ
調べて本県でも準備していかなけ
ればならない。国体部会是指導員

が主体となり、他に富士重工から
二名の参加を得て、澄みきつた空
気の中をさわやかな風にゆれる高
山の植物の名を、クイズで楽しみな
がら歩いてきた。
幸い編集委員会では今まで共に労
苦を重ね、わたくしの良き助言者
であつた川辺岳兄が後を引き受け
てくれ、新しい企画のもとにより
すばらしい岳連報とすることを約
束してくれた。今日まで嶺創刊
のために協力とご声援を送つて
くれた先輩諸兄と岳友の皆さんに
感謝しつ、新しい編集諸氏のご健
闘を祈つております。(太田忠行)